

■ドイツ：新鋭ガスコンバインドサイクル発電所が経済性悪化で休止の危機

2013年3月7日付ドイツ紙によると、2010年に運開したガスコンバインドサイクル発電所（CCGT）が、経済性の悪化で休止の危機にさらされている。この発電所はドイツ南西部バイエルン州インゴルシュタットにある Irsching 5 発電所（設備容量 86 万 kW、熱効率 59.7%）で、E.ON 社、N-ERGIE 社、Mainova 社、HSE Darmstadt 社の共同出資で建設されたもの。年間 4,000～5,000 時間の運転が計画されていたが、再生可能エネルギーの発電量の増加、さらには CO₂ 排出権価格の低下によって後押しされた石炭火力発電の稼働時間の増加によって、最近では 2,000 時間以下にとどまっている。バイエルン州では、政府が脱原子力政策を発表した後、5 カ所以上で CCGT の建設が計画されているが、計画の見直しに発展する可能性が高まっている。ガス価格の上昇もあいまって、CCGT の稼働率の低下は欧州各地で見られている。